

平成21年度 兵庫県立姫路別所高等学校 学校評価報告書

1 教育方針と本年度の重点目標

教育方針	校訓「友愛、責任、自立」の精神の涵養を基本として、「和して同ぜず」の精神のもと、知・徳・体の調和のとれた人格、豊かな心とたくましく生きるを育成する。
------	--

重点目標	1 心の教育の推進と人権尊重の精神の育成に努める。 2 基本的生活習慣の確立と基礎・基本の定着を図り、主体的に生きる力を育成する。 3 保護者・地域との連携を深め、開かれた学校、信頼される学校づくりを推進する。 4 教員の資質と指導力の向上を図り、「わかる授業」づくりに努める。
------	--

3 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

・特になし
-------

4 総合的な学校関係者評価

・近隣の公園の美化など、前回の評議員会の後、すぐに対応するなど学校関係者評価を受けた学校運営は評価できる。
---

2 学校自己評価結果（☆昨年度より改善された項目 ★来年度への課題）

評価（A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

分野	評価項目（来年度の課題となる項目を中心）	評価	学校の取り組み状況・改善の方策
生徒指導	★明確な生徒指導基準の設定及び生徒・保護者・教職員間でその共有・実践を図る。 ルール（服装・頭髪）・マナー（通学マナー）を遵守させ、規範意識を育てる。	B	学年間の生徒指導の基準について、すり合わせをさらに充実させる。 学年・生徒指導部が連携すると共に、より多くの教員が指導に係わる。 生徒のブログに関する内容などについても指導が必要である。
	外部講師等の活用により、情報モラルなど社会の変化に対応した指導を行う。		今年度より、生徒支援部を立ち上げ、心のサポート等の充実を図れた。
	☆キャンパスカウンセラーによる研修を実施する。また、生徒・保護者に対して、心の教育を充実させる。		遅刻など、家庭の協力や啓蒙を求めている。「食育」を充実させる。
	★規則正しい生活のリズムを整えさせ、心身ともに健康な生活を送ることができる習慣を培う。		生徒会組織は充実したので、さらに生徒会の活用を図っていく。
	生徒会を活性化させ、生徒中心による学校行事等の運営を図り、自主・自立の精神を育む。 部活動を活性化し、調和のとれた人格を育成する。		部活動紹介などに工夫を加え、加入率・定着率をさらに増やす。
進路指導	☆進路指導部と学年が連携し、進学・就職に関する有効な情報を共有し、生徒・保護者に提供する。	B	進路部会を定例化し、情報交換の場を増やす。
	☆ホームルームや総合的な学習の時間を利用して、主体的に進路選択ができる能力を育成する。		総合学習や進路別学習会が生徒の進路選択に効果をあげている。
	☆外部講師による進路講演会の活用やオープンキャンパス等への参加を促し、進路意識を高める。		オープンキャンパス等への参加を義務づけ、進路意識の高揚を図れた。
	☆進路実現に向けて、補習授業や模擬試験、面接練習などを効果的に実施する。		学年主導から、進路部主導の組織的な指導へと移行すべきである。
学習指導	教員が研究授業や授業アンケート等を活用して、指導力の向上を図り、「わかる授業」づくりに努める。	B	教育課程の見直しを図る。新しく赴任した教員への研修の充実を図る。
	少人数授業や習熟度別授業、補習や補充などを実施して基礎学力の定着を図る。		少人数指導や習熟度別指導のあり方の研究・研修を重ねる。
	ボランティア実践やふれあい育児体験など、本校の特色を生かした体験的な学習の充実を図る。		地域との連携も含め、体験的な学習について見直しを行う。
	漢字検定や英語検定、情報処理検定等の資格取得を目指し、学び続ける意欲と態度を育成する。 芸術鑑賞会など芸術文化に関する行事を開催し、感性豊かな心を育成する。		検定への興味・関心、意欲を育てる工夫が必要である。 さらに内容を吟味し、事前指導の充実を図る。
学校運営全般	★進路・生徒指導・人権など学校の諸課題に関する教員の研修会を実施し、指導力の向上を図る。 他校への学校訪問で得た有効な情報を研修会で共有し、教員の資質及び指導力の向上を図る。	B	多忙さに追われ、研修の機会も難しいが、計画的に研修を企画する。 情報の共有化や実践的なフィードバックを行うべきである。
	★危機管理マニュアルを作成し、実践的に対応ができるように訓練など防災・安全教育の充実を図る。		危機管理に対する校内組織や役割分担をさらに明確にすべきである。
	★各部や各学年の連携による協働体制を構築する。 役割分担の明確化、適正な人員配置など機能的に組織化し、学校の活性化を図る。		情報交換など協働体制は改善されたが、まだ不十分である。 各分掌で人数配当などを見直すべき点がある。
保護者・地域との連携	PTA総会、学校ホームページ、学年通信などを通じて、学校の情報を積極的に保護者に発信する。	B	HP担当者を分掌として明確に位置づけ、HPの充実を図る。
	授業公開、オープンハイスクール、中学校訪問などを通じて地域に開かれた学校づくりを推進する。		目的の明確化と戦略の立案と実施が必要である。
	学校評議員会の意見や学校関係者評価を受け、それを公表し学校運営の改善を図る。		学年当初に立てる目標設定を、学校評価をさらに生かしたものにす。

5 評価項目ごとの学校関係者評価

学校自己評価の結果及び改善の方策についての評価
・生徒が社会に出た時に必要な社会のルールやマナーを身につけるため、人の話を聞く態度や遅刻・欠席の指導は継続すべきである。
・進学率が上がったことは進路指導の成果だと評価できる。
・特になし
・特になし
・PTCA活動については、「環境整備活動」や「グランドゴルフ」など実績をあげている。 ・オープンスクールについては、地域の人と生徒が一緒に楽しめるような内容にする、また案内や告知については更なる工夫が必要である。 ・近隣の公園については、非常に美しくなり、地域としては感謝している。 ・同窓会の活性化及び生徒への浸透をさらに図れるように学校もバックアップして欲しい。